



年間第 21 主日 (マタイ 16:13-20)

私にとってでなく、私たちにとってイエスとは誰か

8月27日、学生たちはすでに二学期が始まっているようで、忙しいなあと思います。8月31日までしっかり休んでいた頃の記憶は、遠い昔の話になったようです。夏休みの間に日頃会わない人と出会ったことでしょう。その機会に一緒にお祈りしたり、一緒にミサに参加できたなら、貴重な信仰体験になったと思います。

福音朗読はペトロが信仰を言い表す場面でした。弟子たちは、人々が言っている評判を伝えます。人々は「洗礼者ヨハネ」「エリヤ」「預言者の一人」など、優れた人物の一人と言っていました。一般の人々にとってイエスは、「偉大な人物の一人」とどまっていたのです。

しかし弟子の頭であるペトロは違っていました。「あなたはメシア、生ける神の子です」(16・16)と答えます。その答えは、イエスが「あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ」(16・17)と指摘したとおり、天からの照らしを受けての答えだったのですが、「偉大な人物の一人」とどまらない立派な答えでした。

人が何かを言い表した時、それはその場しのぎであってははいけません。言葉に責任を持つ必要があります。説教のあとに私たちは信仰宣言をします。「天地の創造主、全能の父である神を信じます。」ミサの中で父なる神を信じますと言っておきながら、ミサを終えて一步教会の外に出た途端に神をないがしろにする人のような態度(人の悪口を言ったり人を軽んじたり)、そうした態度を取るべきではありません。生涯、父である神を信じる者として言葉に責任を持つべきです。

ペトロは表明した自分の信仰に忠実であろうとしました。熱心さのあまりイエスに叱られることもありましたが、「あなたはメシア、生ける神の子です」この信仰に恥じない生き方を貫こうとしました。これは私たちへの模範でもあります。私たちも、イエスを誰だと思っているかみずから問いかけ、その信仰に忠実に生きなければなりません。

「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」(16・15)弟子たちはそれぞれ、何かしらの答えを持っていたでしょう。ただ「自分よりも立派な答えを他の弟子に言われるかも知れない。それは嫌だなあ。」そんな余計な考えが邪魔をしていたのかも知れません。

そんな中で、ペトロが答えます。「あなたはメシア、生ける神の子です」。ペトロは自分にとってイエスが誰なのかを答えたというより、「自分たちにとって」イエスは誰なのかを答えてくれました。他の弟子がどう答えるかは分からない。けれども、弟子を代表して、「自分たちにとってすべてである方」そう思った時に天の父の照らしによって答えることができたのです。

「私にとってイエスは誰か」それは、狭い考えに陥るかも知れませんが、「私たちにとってイエスは誰か」を考えてみましょう。あなたの家族にとってイエスはどんな存在ですか。私たちの教会家族にとってイエスはどんな方ですか。それがしっかり答えられるようになったら、生涯にわたってその答えに忠実であり続ける努力を重ねていきましょう。責任も任せられることもあるでしょうが、「あなたは幸いだ」という約束の言葉をイエスから受け取ることになるのです。

年間第 22 主日(マタイ16:21-27)